

第1回検討会における 意見等の整理

第1回検討会における主な意見

＜検討の進め方に係る意見＞

- 検討対象を広くすると、論点が分散してしまい検討が難しくなるので、過疎地域を大分類として整理する必要がある。
- 過疎地域に特化した検討を行い、その後に過疎地以外の地域や大都市でも使用可能な技術に発展させていくといった取りまとめ方がよいのではないかな。
- 過疎地域対策として、すぐに実現可能なものでも、技術的に可能なものとソフト面でできるもの、規制に関連して運用面でできるものなどを短期的、中長期的なものとして全て洗い出して整理する必要がある。
- 過疎の程度や時間軸を考慮することは、大変重要である。ある程度類型化、整理した上で、それぞれに合った対応を考える必要がある。
- 実証実験で事故なしとの結果が出ても、たまたま事故等がなかっただけで確実に安全なものとして判断することは難しい。このようなギャップを考慮しながら検討を進めるべき。
- 論点を、平時(過疎地・それ以外)と災害時に分けし、議論すべき。
- 技術的にクリアできてもコスト的に厳しいもの、既存の技術で応用できるが法令上の整理がなされていないもの等の切り分けを行い、論点や課題を挙げたほうがよい。

＜過疎地域に適した課題に係る意見＞

- 過疎地域対策について、現状できていない(失敗)事例をなぜ駄目だったのかも含めて何点か示し、解決策を模索してはどうか。
- 過疎地域には、地域の実情を踏まえた工夫を加えたほうが若い人が集まるという実情もある。
- 過疎地だからという理屈で整理するのではなく、新たな技術により安全性が担保できるということを中心に考えないと、過疎地と都市部での不公平感が生じる。
- 500人規模の市町村で、仮に自動車を運転する人が50人と仮定すると、その50人を登録し、限定的に特例的な措置を講ずることができるのではないかな。
- 燃料供給・流通のネットワークシステムを全国レベルから小規模レベルまでを効率よく構築する必要がある。
- 過疎地域の人材不足を考えると、危険物取扱者の人材確保と支援の仕組みについて、考える必要がある。
- ハード整備に関して、フルセットの大きなものはなかなか厳しいので、安全性を維持しながらどこまでコンパクト化できる技術があるのか、AI・IoTとも併せて考える必要がある。

＜AI等の新技術の活用に係る意見＞

- AI・IoT等の新技術については、現在の実証を増やして精度をあげる必要がある。
- AI・IoT等の新技術が適用できそうな領域（日常点検への応用可能性等）について議論が必要ではないか。
- AI・IoT等の新技術の導入は、ただマンパワーの削減ということだけではなく、過疎地域の実情を考慮する必要があるのではないか。
- そもそも過疎地に必要なのかという議論も必要である。